がんばろう 崎!

津波なんかに 負けない!

第267号 平成29年2月20日 大船渡市立 末崎地区公民館 電話 (F兼) 29-2955

1 いか l 捗 · て 、ル 状 末

崎

町

O)

防

潮

堤

Ø)

進

捗

状

況

末崎の風土散策 (56)

·愛唱歌「末崎の四季」「末崎めぐり」について~

その4

初めてドレミ (1.2.3) の略符横開きの文部省唱歌の教科

書で、視唱させられて視唱法へと 転換させられたのであった。子供 達からもたいへん慕われている。

小細浦の山岸家(菅原宏一氏) 所有のピアノ(当時近隣になく価 格約千円といわれた)を借用し、 学校に運んで音楽会などを開き盛 んに勉強した時代であった。先生 の奥様もバイオリンを弾き時折教 員住宅から夫婦合奏の美しいメロ ディーが流れて、心暖まる美しさ に羨ましく何ともいわれない情景



であり子供ながらに心引かれる思いだったと記されている。大正 12年6月末崎小学校に勤務して2年2ヶ月の大木先生は釜石実科 高等女学校にり転勤することにな同年 6月 18日午後 1時から校 内送別音楽会が開かれ、惜しまれながら釜石に赴任されたのであ った。(この学校は後に釜石女学校となり、昭和 38 年には岩手県 立釜石南高等学校と改称されている) その後、大正 14 年 7 月 4 日末崎小学校高等科生徒 67 名、教師 8 名による釜石修学旅行が 行われた。細浦港桟橋から発動機船で午前 8 時 30 分発軍艦「日 進」に乗船し、釜石まで海路の旅であった。艦上では軍楽隊の勇 壮な吹奏楽に夢心地に酔い、また砲術操作訓練では、大きな砲筒 が頭上すれすれまで下がったり、左右自在に旋回され肝を潰す思 いだったという。やがてゆっくり釜石港に接岸したら大木先生が 手を振りながらニコニコ顔で出迎えられ、皆びっくりし、驚きと 懐かしさでいっぱいだったという。その後先生は生徒とともに釜 石町内を案内されている。生徒達は釜石で 1 泊し、翌日汽船で全 員無事帰校している。大木初太郎先生には奥様の「としめ」さん との間に、子供が1男、2女あり。長女「てるこ」さんは東京葛 飾に在住。長男「眞一」さんは岩手県立聾学校長や岩手県立図書 館長を勤められたが故人となっている。「末崎の四季」「末崎めぐ り」は大正時代に作られており、今後年代を経るにつれ、忘却の 彼方薄れてゆくことであろうが、私の父母が生前、朧げな記憶を 辿りながら話した事などを併せて書き留めたものである。(聖)

時

内

容前

9

5

12

タ

(日)

1)] 。岩いロ調海振 、査底興业細聞県は況崎 盤る、査底興・当に。そののセ部 に。そののセー冊・、こ、 なさの結地ン部湾た市の完の っら下果質タ同口。のよ成防 でには、は一は防 担うまに 浦いやどや町 お石 成る海防 のぎ さが 29 上潮 \sim \mathcal{O} 29 (上 例 年 捨 か 堤 、漁県潮 いそ砂上 ま砂 ドエ 当にで堤 10石ら基 るの地層こ港大堤 る地 口事 部なの工 。大碟 をに 局つス事 月 と下に部れ復船に まに までこの分にこ石の で食 取入 のはなはま旧渡つ にてケ等 出いジの りる こ固っへで課水い 1 い 除 といてドのご 産て 向るユ進

止波とで波行庁 課ははこ (5)(4) (3) めががも来うおト長許日の湾リ残平年取平をの行平間 る来な湾襲。よのはさ本フローつ成間り成行コう成程 と襲い内前大び津言れ初ラ防トで31程付31ランいしよのにき釜波うな、ツ潮部い年かけ年。クラでう水海な石に。い世プ堤分る2か工1 °30 为 クそ年か リの10る もにが水地合対防と界ゲをの防月 る 後月 事月 `カン をか `す湾が震庁す潮髙初|完工潮か \vdash 行ら そる外ひがよる堤橋でト成事堤ら 部一ら °にけあり開本漁あ式さをの 分部杭 水 う をま出るり無閉体港り防せ行コさ の防打 `線はの復失潮るいンら 食たる場 (本 工潮ち い津こ合津で県ゲ旧敗堤 `クに 2 体 事堤を

もがど定堤土11ン防市 4 あ遅のとは砂月ク潮が平 完 もがど定堤土11ン防市 は 10 月 20 期 が 平 完 30 桟 、 、を 完 リ 堤 担 成 門 成 小 年 橋 こ 平 盛 成 ト が 当 20 寸 に 何 こ '30 桟 るいエの 橋 つ細 こ平盛成 一が当30之は細 と よ事 3 れ等い浦 と成 つ予トあす年浜平浦月道か1 うも **一で30** て定のるる度湾成湾の路ら期台。部。も半時30時予会2分 。部 も 半 防 30 防 予 含 2 分 8形一分現のば潮年潮定め期の 月に方は在に完堤3堤 に造、平L、成に月に 議ら工 完分工 に造 会れ事 成に事 完る大成型泊予つ予つ のるの は入は と進 承 成防量29の里定い定い 平る終 認き捗 予潮の年コの 。て 成 了

か捗の置峰 か状防漁岸 る況潮 業地 予を堤倉域 定考は庫の 橋 と慮上付松 لح 0) し記近島 こなのまか とが工でら なのまか 港 で 道 ら事の大 との陸浜 路 あ り進上定 に る

茶人食末**力** 道形生崎 末大催 成 るさとセン 崎船 地渡 29 教劇活町 年 室一改婦 区市 · 月 公立 民中

協

主

館央

八公民

『満田』『満田』』 連 絡 協 議

期

第 10 回 末崎 ひ町 な民



資料は無料です。

ŋ

ŧ

ず

ることを思うと頭づくりに日夜鋭音とやむを得ない。とかかり、かつ人手 民とか計を がやか、得 申 し上 入な 札はい げ れ 業 ば 7と頭が下がる、 枚鋭意努力されて 女心して暮せる環 なら 者 八手不足等に な いこと 市 る、 である。 でもえるが でもる。 でもれていいが、 でいれていいが、 でいれでいいが、 でいれでいが、 でいれでいいが、 でいれでいいが、 でいれでいいが、 でいれでいいが、 でいれでいいが、 でいれでいが、 でいれが、 にいれが、 でいれが、 にいれが、 にいれが、 にいれが、 にいれが、 にいれが、 にいが、 にいれが、 にいれ

裁会時 期 V 下み縫 場間 日 さな具た B ふ13 3 る時月 3 こまご自由にごなをお持ちくださ どお持ちくだいるさとセ 月 の 5 25 11 集 16 時 (土) 日 V (土)

ン

タ

参

加

☆おやつ ☆お茶会 『おてだま』による 『おてだま』による でも茶会 のではる ではる ではる ではる

連 さみ 鈴**絡**講花 いな 木**先**習材 願313131 化材の準備があるい。 隆 準備があります 子 しま 日金までに 電 話 由 29 にご 連絡を 3 参 4 \hat{O} 加 7 お 下 3

花

袋切花ち鈴・り器物木 習材用 新ボ・ 聞 紙ルハ ・ サ タ *(1)* 才 ル剣 山 ゴ

ミ水

講

|公民

館

主

ンタ

日 \star 場月月時 草 26 12 日 日 月 流 (水) (水) 生教け 10 10 時~ 12 12 室花 開 時時 催

デジタル公民館まっさき HP

http://www.massaki.jp/

デジタル公民館まっさき FB https://www.facebook.com/digitalmassaki/